

# マルセイニュース 11月号

発行日 2014/11/22

株式会社 マルセイ

浦河町東町うしお1丁目

〒057-0005 TEL 0146-22-5123



## 「浦河町」が全国に情報発信された11月！

いわしの大群が港に押し寄せてびっくり！「浦河町に…」と全国ニュースで放映されるほどの大騒ぎでしたね。余波はしばらく続き、町中が魚の臭いでいっぱい。処理に当たられた方々は大変でしたね、ご苦労さまでした。「このごろ随分、浦河町が話題にあがるよ」「浦河がなんだか元気だね」と他所の方の声が聞こえてきます。それを証明するかのよう、今月はいくつかの雑誌で浦河町が紹介されていました。「スタンプハウス」「乗馬体験ツアー」「六畳書房」など、若者たちが仕掛ける試みによって新しい「場」が創られ、育まれ始めています。つながりの輪の中に加わって、一緒にワクワクしてみませんか？



浦河、来てます！六畳書房がメディアで紹介されました。「出版ニュース」では、くすみ書房社長の久住邦晴氏の寄稿により約6千字に渡るレポートが掲載され、NHKラジオ深夜便出演の際も熱烈PR！他にも、全国誌「ku:nel」に8ページ、道内版「スロウ」では11ページに渡る特集で浦河町の魅力が紹介されています。

恭平くんが作ってくれたタモでいわしをすくって楽しみました。出会った友人達もとっても楽しそう～♪雲まで「いわし雲」だった港の光景でした。

# これで車輛の傷みも防げます ドキドキワクワク！当社に車庫ができます！

年内には完成！自称「なんちゃって設計士」のばわふるが楽しそうに設計を担当した倉庫。いよいよその全貌が見えてきました。この冬からは現場を担当する男性たち用のトイレと休憩室も新しくなり、人も車も快適な環境が整って仕事に取り組めるようになります。



創業時からの建物にそつと別れを告げていた会長でした。



古い建物の解体。できるところは自分たちが手をかけましたが、あとは業者さんにお願しました。

経営計画で決めていた車庫倉庫改築がついに始まりました。塩害による車輛の傷みはもちろん、建物の老朽化がひどく、雨漏りの応急処置も限度を超えていました。何よりも怖かったのが漏電で、それが原因で火災でも起きやしないかとハラハラしていました。でも、ようやく実現しました。うれいすね。

## 経営計画が現実になりました！

古いD型ハウスと物置を壊して事務所周りの風景が変わりました。訪れる人からは「新社屋が建つんですか？」と聞かれますが、できるのは車庫・倉庫です。

## 当社の環境整備の大仕上げです！

先ずは不要なモノを捨てることから始めましたが、古い倉庫の中からは思いがけないものがたくさん出て来ました。中でも驚いたのが、どうしてこんなところにあったのか、独身時代にマックスが社長に出した古い手紙の数々。いやー、驚きました。最初に見つけたのがマックス自身で良かったのなんのって、自分の手でクリーンプラザに持ちこんで無事に焼却処分。後でそのことを知ったばわふるが残念がることしきり。「全部燃やしちやっめたの？残念！しばらく笑って楽しめたのにねー」ですって。ホント、危なかつたです。(笑)

ともあれ、強風にも降雪にもめげず建設工事が進行しています。



社長～、笑っていないでどんどん捨てて下さいよー。

今回の建て替えは社長が決断。銀行からの借入も無事に決定しましたが、それからというものの大忙しの毎日。この機会にと大胆な断捨離を実施しましたが、いやー、捨てた捨てた。ほんと、捨てました！

## (株)マルセイ 第37期決算 税務申告終了しました！



日常業務その他で多忙な中、今年も申告書作成に頑張ったばわふるさん、お疲れさまでした！すでにマルセイの第38期がスタートしていますが、今期もみんなで頑張ります。どうぞ、よろしくお願いたします。

11月13日(木)。今年も大安の日を選び、当社の税務申告を無事に終了。創業当初から会長が作成し続けてきた税務申告をばわふるが引き継ぎ、以来、一度を除いて、毎年自社で申告書の作成を続けています。

## 消防署・秋の立入り検査



11月11日(火)。浦河消防署による危険物施設への秋の立入り検査を受けました。春に次いで定期的に施設検査です。設備の損傷や不備などもチェックできる大切な機会です。今回は社長が10年に一度の免許証の写真を更新するのを忘れていたことが分かりました。うっかり？それとも10年前のままであったのかな。笑

今回も、88才の小山蔚(しげる)会長がしっかりと支えてくれました。会長ありがとうございます！



# 使い始めて不具合はありませんか？ 22-5123 ストーブ分解整備はお早めに！



いよいよ今年の冬がやって来ます。もうストーブはお使いですか？早速、使い始めたストーブの調子が悪いというご相談もありますがお宅のストーブの燃焼具合はいかがでしょう。分解整備を迷っていらっしゃるのなら、本格的な寒さがやって来る前にお問い合わせください。

「白煙が出たんです…」と、ご相談を受けたストーブ。点検させていただくと、バーナー部分が傷んでしまっていました。お客様と相談して、部品を交換して修理をする了解を得ました。ところが、いざ部品を発注してみたところ供給が終了してしまいました。これでは修理することができません。

このように、製造から10年以上を経過している場合、修理に必要な部品が手に入らないことがあります。分解整備は3〜4年に一度とお勧めしていますが、使用しながら状況を判断し、なおかつタイミングを逃さないことも長く使用して行く上で大切です。

分解整備のご相談をお受けしても、状況によっては、「来年でも大丈夫だと思えます」とお伝えすることもあります。商売つ気がないねえ…と言われることもあります。無理に分解する必要はありません。

## 床暖液も チェックしましょう！

床暖房の不具合のご相談も少なくありません。床暖房の場合、ストーブ本体の故障ではなく、「循環液」が原因による不具合があります。



お客様のお宅に出向き、実際に燃焼の不具合を確かめてから修理のご相談をしている様子です。

床暖機能を使用していると、「循環液」は自然に減っていきま。それを補うために、水か循環液を追加しながら使用します。通常は水の補充でかまいませんが、水ばかりだと凍結の危険性が増します。でも、循環液ばかりを追加しても不具合が生じることもあります。

社内ミーティングの際、社長は私たちの体の「血管」に例えて説明してくれました。

「脂たつぷりの肉好きの人の血管は、流れが悪くなっている可能性があります。ドロドロの状態の血管には、水分を加えてサラサラの状態にして流れが良くなるようにした方がいいよね…」みたいにです。笑なるほど、循環液も私たちの血液と同じで、どんな状態かということを知りながら使用するといいですね。

最近では、以前よりも床暖房が温かくないなあ…と思われるような場合は、循環液の交換などチェックが必要です。仕組みを理解して使いながら、温かい冬をお過ごしください。



## 定期的に、ご利用いただいています

# マルセイの暮らしのサポート事業

不要物の収集運搬や庭の草取りや片付け仕事など、定期的に「暮らしのサポート事業」をご利用くださるお客様がいます。年に一度、あるいは半年に一度の方などお客様によってご利用の仕方は色々ですが、定期的なご利用は本当にうれしいですね。ありがたいことです。

「若い人が入ったんだね。社長良かったね」「ご苦労さん」と、お客様がより優しく声を掛けて下さいます。どうやら気田くんがうーんと若く見えることもあるようですが、彼の実年齢は27才。(株)ユートラインの村下さんとは同級生です。)おさんと二人で出かけた時や、社長と一緒にいた際にも親子に間違えられることがあります。実際に社長の長女とも同級生なので、親子と間違われても不思議ありませんね。



## 新人の気田くんが大活躍！ 若い力でパワーアップしました



マルセイの通称「ウルトラマンジャンパー」に身を包み、黙々と仕事をこなしてくれる気田くん。最近、危険物の資格試験を受験しました。

片付け仕事でも大活躍してくれている新人の気田恭平くん。「社長組」の大澤さんが大腿骨を痛め、最近では気田くんとの二人組で片付け仕事にも出かけています。

「若い人が入ったんだね。社長良かったね」「ご苦労さん」と、お客様がより優しく声を掛けて下さいます。どうやら気田くんがうーんと若く見えることもあるようですが、彼の実年齢は27才。(株)ユートラインの村下さんとは同級生です。)おさんと二人で出かけた時や、社長と一緒にいた際にも親子に間違えられることがあります。実際に社長の長女とも同級生なので、親子と間違われても不思議ありませんね。

今月は強風の日が多く海からの潮風で窓が塩で真っ白になってしまいましたね。毎年年末になると、換気扇と台所付近の掃除を依頼して下さるお客様から、窓拭きのご相談をいただきます。お引き受けしました。ご高齢で單身住まいの方からこういった簡単な暮らしのサポート事業のご相談も増えています。

定期的に、しかも安心して利用して下さるお客様がいることは、本当にありがたいです。

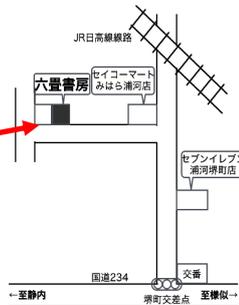


# 11月25日(火) 古民家にできる新刊書店 「六畳書房」がよいよ開店します！

営業は毎週火曜日 13:00~22:00



浦河に新刊書店が誕生します。「浦河に本屋を作るって可能ですか？」と問いかけた若者と、「こうすると出来ます」と答えを提示した本屋の店主の出会いから生まれた小さな書店です。本気で本屋を営むおやじの熱い思いが若者の背中を押して、たくさんの人の思いや協力の輪を広げながら小さな本屋の物語がスタートします。



多目的貸しスペース「かぜて」浦河町塚町西4丁目4-40

## ■ 一口店長(支援者)を追加募集しています！

「1口店長」 1口 5,000円 (お一人最大3口まで)  
\*1口につき1冊の選書ができます。

\*自分の選んだ本のポップを作



連絡先(武藤) 080-4046-8474

突然ですが『かぜて』をはじめました。「まぜて」「いれて」の方言だそうですね。とてもいい響きだったので、この名前にしました。色んな人が気軽に「かぜて」もらえるような場がいいなと思ったので。

「多目的貸しスペース」なんて新聞には書かれましたが、なんと言ったら良いのか。今まで、イベントの打ち上げ会場、アナログゲームの会、勝毎花火大会の中継、ずんだもち作りワークショップ、写真展、ハニミカ作品展など、本当に様々な形でつかって頂きました。ありがたいことです。

僕もそうなのですが、やっぱり自宅以外の「なんとなく集まれる場」が必要としている人って結構いるんだなあと実感しています。友達も移住してきたし、よそから来た人がまちのひととも気軽に集まれる場所、ずっとつくりたいなあと思っていたのです。

そんな7月のある日、マックスさんから入電。古い空き家が塚町にあるとのこと。「こゝ、いい！借りちゃいなよ！」と一緒に見に行ったマックスさんがなにかば絶叫でした。絶叫はともかく僕はこんな時、女性の感覚を全面的に信用することになっています。即決で借りることにしました。

『かぜて』が人の駅みたいにになるといいなあ

すると、趣旨に賛同してくれた大家の石黒静江さんが家賃をぐっと安くしてくれました。また、共感してくれた方々がボランティアで掃除や草刈りに参加してくれました。こうしていざれ取り壊す予定だった民家が『かぜて』として再生することになりました。みなさんのお陰です。僕はなんもしてないですね。

なんもしないのも悪いので、11月25日(火)からはこの一室で「六畳書房」という小さな小さな本屋をはじめます。きつと探している本は見つかりません。でも、まだ題名も知らない本との出会いはきつとあります。なぜならここはみなさんがおすすめする本が並ぶ一風変わった本屋さんだからです。そして売れば売れるほど本が増えていきます。なぜなら商売ではないからです。だから週に一度、火曜日しか開きません。

どうもいまいちゃわかりにくい『かぜて』ですが、これですまは本を眺め(冷やか)し)という目的で敷居が低くなることを期待しています。浦河には道の駅はないけど、かぜてが将来的には人の駅みたいになるといいなあと願う次第です。

浦河町地域おこし協力隊 武藤拓也



連絡を受けて出向いたお宅で、六畳書房へ寄贈された本を手笑顔の武藤さん。

『かぜて』で開催！大盛況でした  
**「写真展」と「ハニーミカ展」**

10月26日(日)～30日(木) 11月6日(木)・7日(金)

浦河町地域おこし協力隊 加藤エミさん

浦河町地域おこし協力隊の加藤エミさんが、仲間の武藤さんが運営する『かぜて』を活用して企画展を行いました。「写真」と「リメイク」、どちらの企画にもたくさん反響があり多数の来場者がありました。これから毎週火曜日は、『六畳書房』という本屋さんとしてオープンする、住宅街にある古民家『かぜて』が楽しい場になりそうです！



「食」を通じていくつもの仕事にも奔走。左は地域デザインカフェでのポトフ。右は子供たちと一緒に粟を使った多世代交流社会教育イベントで作ったモンブラン♪



この秋、『かぜて』でふたつの展示を行いました。ひとつは写真展。もうひとつはハニーミカさんの作品展です。

写真展は札幌在住のデザイナー 二宮翔平さんと私の二人展でしたが、札幌以外で作品を展示するのは初めて。お客様は来てくれるのだろうか？と、不安のなかでの開催でした。

ただどビックリ！今までかぜてでのイベントには来る事が無かったけど写真展なら…と来てくださった方がたくさん！浦河はもちろん帯広や札幌からも来ていただきました。(個人的には最終日、お世話になっている役場企画課のみんながワイワイかぜてに集まってくれて嬉しかった…！)



ふたつの展示を通して、好きなもので繋がる場所の顔を見せたかぜて。「写真」や「リメイク作品」を好きなたくさんの人たちとの新しい輪ができました。なんか面白くて、なんか楽しい人が居そうだから行ってみよう！な流れができてくれたらよいな、と思った秋でした。

浦河町地域おこし協力隊 加藤エミ

新聞にも開催の情報を載せていただいたところ、二日間であらゆる約百三十名ものお客様が作品を楽しみにいらっしやいました。「こんな風に外に出るきっかけがあつて嬉しい」なんて言ってくくださる方も…！かぜてに来た方は「ここ、なんかいいね」と言っていました。



ハニーMIKAさん(左)と楽しそうに作品を試着していたお客様のツーショット



ふたつめは、ハニーミカさんの作品展。ミカさんは以前のマルセイユニスにも登場した「リメイクアーティスト」として活躍されている女性です。



きっと、ハンターのおじさんたちのアイドルでしょうね^^



うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会 **地域デザインカフェ Vol.23**

**「ハンターは地球のお医者さん」**  
 様似町地域おこし協力隊 井坂 美保子さん

11月13日(木) 総合文化会館 19:00～21:00 参加費500円



今月のデザインカフェは、様似町地域おこし協力隊の井坂美保子さん(福岡県出身)をカフェマスターにお招きしました。アポイ岳ジオパークで動物を専門分野に活動している井坂さん。実は狩猟免許を持つハンターのひとり、「狩りガール」でもあります。



学生時代は美術部だったという「狩りガール」の井坂さん。パソコンを使つてのイラスト入りの自己紹介や「狩猟管理学」の説明も、とにかく楽しく興味深かったです。

狩猟の話に参加者は興味津々。20名の参加者の中には、狩猟に興味をお持ちで、新ひだか町静内、新冠から参加された方もいました。

元々は獣医さんを志望していた井坂さん。酪農学園大学で狩猟管理学を学ぶうちに心が移り、愛玩動物や家畜ではなく、野生動物に関わるハンターになつていったといいます。

「狩猟管理学」はタイトルの通り、ハンターが「地球のお医者さん」の役目を果たすための学問。保護するだけでなく、殺すだけでもいけない生態系のバランスを取るための研究と実践(狩猟)を行う学問だそうです。井坂さんは狩猟で得た動物の皮や肉は極力全て、活用するようにしているといいます。

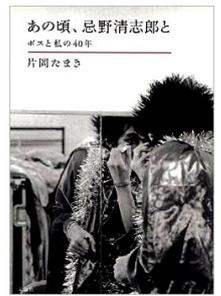
私達が厄介者として扱っているエゾシカも、かつては山の幸として重宝がられていました。動物を狩りその命をいただくことは、動物や自然に敬意を払って付き合う行為といえるのかもしれないと感じました。

うらかわ「食」で地域をつなぐ協議会  
 村下 知宏

# 『あの頃、忌野清志郎と ボスと私の40年』

片岡たまき 著 出版社 宝島社

最近読んだ本の中より…



中学生のとき、『僕の好きな先生』を歌うRCサクセションをたまたまテレビで見たときからの清志郎のファン。「いつかきっとRCと一緒に仕事をするんだ!」と熱望した少女は、その後本当に清志郎の衣装係となりマネージャーへと転身します。全盛期のRCから清志郎が亡くなるまで、ともに過ごした日々が愛情深く記されています。

たとえば衣装係としてツアーに同行し始めたころのこんなエピソード。あまり汚れないのをいいことに、著者は革のステージ靴をササッとしか拭きませんでした。清志郎がある日、「ねえ、たまに靴なんて磨いたりしたら、喜ぶと思うよ。」と優しく言ったので、すぐに靴磨きセットでせつせと磨くようになったといいます。RCが独立するときも、清志郎はこんなふう



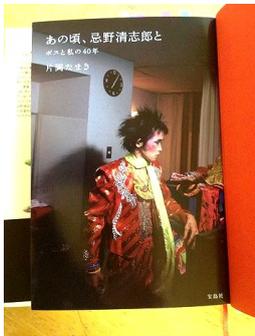
著書 背表紙より

この本には、批評めいたことがほとんど記されています。RCの音楽性とか清志郎が若者にあたえた影響とかいうようなことが、何一つ書かれていない。東芝から「待った」がかかり、発売中止となった反原発ソングのことも、少し触れられている程度。著者の片岡さんは、清志郎がどんなふうステージでは素敵だったか、楽屋では思いやりがあったか、人として個性的だったかということを描いていきます。それがすこく心地良い。

「たまきもいつしよに新しい事務所にきてほしいのだけれど…どうかな」  
「きなさい」でもなく、「くるべき」でもない。フアンクラブの会報誌の原稿直しをもらつても、清志郎から届くファックスはいつも「これを足すと良いと思うよ」という感じだった、といいます。



こんなふうには、著者と清志郎とのエピソードがたくさん綴られていて読んでいて面白い。清志郎との思い出のひとつひとつを慈しんでいて、切なくもなりま



ステージではイントロが始まり、袖に清志郎はそのリズムに合わせて体を動かして始める。このあと、ついにステージにウサギのごとくしなやかに飛び出していくのだが、その助走を開始する一歩手前で、舞台袖にいるスタッフに「行ってきます」と手をこめかみに持つて行き、敬礼に似た合図をする。私は合図を返して清志郎を見送る。

その場にスタッフがいるとその人たちも合図を送る。(略)私は、数え切れない極上の一瞬に触れさせてもらった。清志郎は、自分のしていることが、「行ってくぜ!」の挨拶が、極上の一瞬だと思ったことがあるのだろうか。(本書より)

ど派手なステージ上と打って変わって普段はもの静かな人だったという清志郎。著者も、基本無口な人だったけど、とても人に好かれたと記しています。三才の時に実母を亡くし、実父とも離れ養子として育った清志郎。北海道ツアーに来ると、必ず蟹を養父母に送っていたというエピソードに「無口」な本

社長

## 発行を始めてから、10年が経ちました



100号を発行した時に並べてみた時の写真です。毎月の積み重ねですが、こうして並べてみると感慨深いものがありました。皆様のお力をお借りしながら、発行させていただけたことに、改めて感謝申し上げます。

マルセイニニュースが120号です。最初の頃は「おはなしや」という喫茶店の片隅にあったパソコンコーナーで、仕事の合間に編集をしていました。あれから10年。ひと昔ですね。あつという間に時間が過ぎました。

この編集作業を、仕事とさせてもらえることに感謝できるようになったのはいつ頃からでしょうか。誌面を通して、たくさんの人とつながることができていると実感できるようになってからはことさら感謝の思いを感じています。つたない編集ながらも「楽しみにしているよ」と、読んでいただいている方からの声を何よりの励みにして頑張っています。ありがとうございます。

この一ヶ月は、その道一筋に打ち込んで生きてきた人たちに数多く出会いました。長年続けたことの結果、身につけたその技術の集積と力量には圧倒されました。山下洋輔さんのピアノをはじめ、他のミュージシャンの方々の演奏も圧巻でした。他にも、若い人が作った映画や素晴らしい演劇を見るチャンスにも恵まれ、忙しいながらも気持ち

学生頃には笑い飛ばしていた、「継続は力」という言葉の重みを感じました。実感する今日この頃です。

マックス



かぼちゃ尽くしのこんな食卓はいかがですか？

## ガスを使っておいしくクッキング



# かぼちゃのニョッキ・クリームソース

かぼちゃで何か！というばわふるのリクエストに応えましたよ～。ニョッキとカボチャスープ、そしてパンとサラダで洋風ランチパーティ♪ どうした?? いつになく真剣に取り組んだマックスに、みんなもびっくり! 高得点でした!



### ●ニョッキ材料(4人分)

- かぼちゃ 400g
- 薄力粉 130g
- 塩 少々
- 粉チーズ 大さじ3
- 卵 1個
- 無塩バター 50g
- 小麦粉(打ち粉用) 適量
- 塩(ゆで用) 大さじ2



### ●クリームソース材料(4人分)

- かぼちゃのニョッキ
- ベーコン 50g
- しめじ 1/2パック
- 玉ねぎ 1/4個
- にんにく 1かけ
- オリーブ油 適量
- 白ワイン(お酒でも良し) 大さじ2
- 牛乳 50ml
- 生クリーム 200ml
- 粉チーズ 小さじ1/2
- 砂糖・塩・こしょう 少々



### ● 作り方 (参考レシピ クックパッド梶原鮎友さん)

- 1、玉ねぎ、にんにくは薄切り、ベーコンは小さめに切り、しめじは石突きを取って小房に分ける。
- 2、フライパンにオリーブ油を熱し、にんにく、ベーコンを炒め、ベーコンの色が変わったら玉ねぎを加えしんなりするまで炒め、しめじを加えしんなりさせる。
- 3、白ワインを加えアルコールを飛ばし、★の調味料を加え全体を混ぜて弱火でふつふつと1分～2分ほど煮込んで火を止める。
- 4、茹であがったニョッキを加え、強火を加えソースをとろりと絡めたら、塩で味を調べて完成!



- 1、かぼちゃはワタと種を取り、適当な大きさに切り柔らかくなるまで茹でる。今回は皮をむきましたが、皮付きでも大丈夫。(茹でると水分を多く吸ってしまうので、無水鍋などで蒸した方がいい)
- 2、温かいうちにつぶして裏ごしをする。冷めると粘りが出やすいので温かいうちに上から押しイメージでこす。

- 3、バター(余熱で溶かす)、塩、粉チーズをさっくりと混ぜます。溶いた卵は生地に含ませるイメージで混ぜ合わせます。薄力粉を加え、切るように混ぜる。捏ねないこと!

- 4、ある程度まとまったら平らなところに打ち粉をして棒状に細長く伸ばし1.5cmくらいにカットして、形作ってからフォークの背で溝をつける。
- 5、ソースを作っている間に、鍋にお湯をわかしてニョッキを茹でます。浮かび上がってきたらOK! 長いと煮崩れてしまいます。



ハロウィンが終わってからの、かぼちゃパーティランチ

「あ～っ、何だかとっても楽しみ！」と、いつになく期待していたばわふるさん。写真の笑顔を見るとお分りのように、どうやら満足していただけたようですね～。少食のおかんも、いつになくたくさん食べて…あとで「食べ過ぎたあ～」と苦しそうでした^^ じゃがいもで作ってもおいしいニョッキ。おすすめですよ♪

## カロリーは少し高めかな?

試食した人	今日の料理は★いくつ?(最高得点 ★3個)
(株)ユートライン 村下知宏 (2.8)	★★★★ ディナー向きかな?と、僕にはヘビーでした。
小山社長 (3.0)	★★★★ 仕事があまく行かなかった日は… 心に感謝の気持ちを持てるので…★みつっ!
ばわふる (2.8)	★★★★ ニョッキが茹で足りない。もう少し塩コショウを!
気田恭平 (3.0)	★★★★ カボチャ最高!
おかん (2.8)	★★★★ ニョッキが粉っぽかった分の減点です^^
マックス (2.5)	★★★★ 洗い物が山のように! ランチには少しヘビーだった



社長のちよつと長いコラム

「すごいオヤジたちに出会いました」

オヤジたちの底力を見た一ヶ月でした。いつもは、オヤジ（わたしも含む）は邪魔をしないで若者と女性の活躍を応援すべし、と言っています、なかなかどうしてオヤジたちも凄いものです。

11月1日は山下洋輔&梅津和時両氏を招いたジャズ・ユンサートに行ってきました。浦河在住のベーシスト立花泰彦さんあつてこそライブです。七十二才の山下さんを筆頭に五、六十代のオヤジたちの演奏の熱いこと。その職人芸のすごいこと。最高でした。



9日は札幌のくすみ書房さんを初訪問。浦河であたらしくオープンする新刊本屋「六畳書房」に並べる本を仲間と選ぶためです。限られた空間の中に店主によって選ばれた本が、ぎつしりと詰まっています。久住社長さん、熱いなーと思います。今回の六畳書房オープンに関しても、久住さんから多大な協力をいただきました。訪問です。



15日は大黒座祭りへ。今年で11回目になるその祭りを主宰する鈴木

翁二さんのスゴさをあらためて実感した一夜でした。鈴木さんは浦河在住の漫画家ですが、自作の歌も素晴らしくこの夜も披露しました。「十五才」すごい歌です。演し物も上映された映画も面白かった。祭りなのにふしぎと哀しさと人恋しさを持ち帰らせるのは、鈴木翁二あればこそでしょう。まだまだ元気でいてください、鈴木さん。

さて、これらに先立って、先月末には「星空を世界遺産に！NZで奔走する日本人」という講演会へ。講師は、ニュージーランドでツアー会社を経営している小澤英之さんです。テカポという小さな村は、星空が美しいことで世界的に有名なところ。小澤さんはこの自然を守るために、長年その地で活動を続けている方で、その静かな語り口とも相俟って誰もが話に魅了されていたようです。わたしもたくさん勉強させてもらった講演会でした。その中

からふたつだけ記してみます。テカポでは「光害」の少ないナトリウム灯を街頭として用い、場所によっては地上1メートルくらいの低い位置に設置しています。今では星空を見に世界中から人が来る観光地になったことなどを話してくれたのですが、小澤さんは「自分がやった」という言い方を、一度も

しませんでした。最初はひとりでしたに協力者が増えていったということはお話から分かるのですが、「わたしがこれを始めました」とは最後まで言わなかった。「手柄を取ってはいけない。むしろバトンを渡すように、次の世代にそれを渡す。」という意味のことを話されたのが忘れられません。

二つ目は、外国の貴重な自然を守るために行動を起こすことが、自分にはできるだろうかということ。難しい、というよりも、わたしも自分では祖国愛があると思っています。他国の財産（この場合は美しい自然）を保全するために行動な

んでできないです。でも、思いました。小澤さんのように異国の文化や自然に敬意を払える人の方が、自国のすばらしさもよく分かるのではな



いかと。小澤さん、わたしと同年でした。なんだか、うれしくなりました。

さのばわふる日記



無事、確定申告終了しました。ホツと一安心。毎年、申告後のご褒美として焼肉を好きなだけ食べさせてもらうのですが、今年もカルビーをたっぷり戴きました。社長、ありがとうございます。なんと更に「褒美がもう一つありました。」



私専用のノートパソコン。しかも社長が私のためにピンク色の物を探し買ってくれました。でも、社長のポケットマネーではなく、あくまでも会社の備品ですが、私好みの色を見つけてくれたのが嬉しい♪かわいいピンク色♪

その名前は「ピンクちゃん」。中までピンクです。ついでに専用バックもピンクにしてしまった。完全に「ピンクおばちゃん」になりました。

昔からピンク色は好きだったけど、身につけたり持ち歩く物にピンクはなかったのに、年とともに明るい色を選択しているかも。赤とかオレンジとかの暖色系。これって年齢のせいですかね。

先日、妹が私の長男との会話の中で『私が札幌に出る時に必要な物をお姉ちゃんが用意してくれたけど、お玉やフライ返しとか色々な小物類、全部ピンクだったよ。キモチ悪いと思わない？』と言われ、後日、入院中の母に必要な買い物をして買ってきた物を見て母が一言。『あ、ピンクじゃなくて良かった。』

え、どうしてピンクを嫌がるのかな？

かわいいのに、共感していただいた方、

「ピンクおばちゃん」になりました♪

発行 株式会社マルセイ  
灯油・プロパンガス販売・機器修理  
廃棄物収集運搬・暮らしのサポート事業



編集 おはなし家(マックス) 発行部数 3400部  
【Emailアドレス】 marusei.gs@gmail.com  
【マルセイブログ】 「マルセイブログ」で検索してみてください  
〒057-0005 浦河町東町うしお1丁目9-3  
TEL 0146-22-5123 FAX 0146-22-5789

冬季期間(11月~3月) 定休日: 日曜・祝祭日 営業時間 8:30~6:00土曜3:00